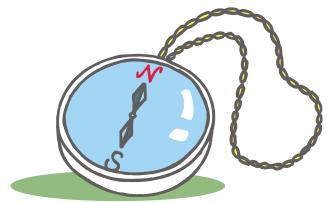


羅針盤



第32号

令和6年1月15日(月)

◆ 「防災」と「減災」

明後日は、今から29年も前となる平成7年1月17日に、阪神・淡路大震災が発生した日です。戦後初と言われる大都市直下型地震は、関連死を含めて6434人の命を奪い、住居だけでなく仕事や暮らしていた日常の日々の全てを奪い去ってしまいました。住まいや水道、電気などのライフライン、そして、道路・鉄道にも甚大な被害をもたらしましたが、またその一方で、ボランティアによる支援や、心のケアなどの人と人の繋がりの大切さを実感することができる場面が増えたのも事実です。もしも、また大きな地震が起きたときに、十分な準備が本当にできているのか、この機会に今一度見直す必要があるのではないかと思います。ところで、生徒の皆さんには「減災」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。「防災」は、皆さんもよく知っているとおり、自然災害を未然に防ぐこと、あるいは、災害による被害を防ぐことを意味していて、「減災」は、災害が起きたことや、被災することを想定したうえで、あらかじめ災害によって被る被害を最小限におさえるために、取り組んでおくことを意味します。つまりは、「災害が起きたこと、被災することを前提としているか」といった点が、防災と減災の大きな違いということです。川が氾濫しないように堤防をつくったりするようなことが防災の一例ですが、災害被害の予測には限界があり、被災を0(ゼロ)にしていくことは難しいといった考え方のうえで進めていくのが減災の取り組みとなります。減災の取り組みでは、個人が取り組んでいくことができる7つの備えといったものが提言されています。それは、【1】自助・共助の意識を持つこと。自助とは自分の身を守ることであり、共助は地域や身近にいる人同士で助け合うことです。行政からの援助である公助も重要ですが、災害発生時には1秒の遅れが命取りとなるため、減災の大切なポイントです。次に、【2】災害時の地域の危険を把握しておくこと。ハザードマップ(防災マップ)で、自分の住んでいるエリアが、災害時にはどのような被害にあう可能性があるのかを知っておくことです。そして、【3】地震に強い家をつくること。耐震診断を受けてみることや、耐震補強工事を行っておくということです。自宅がどれだけ耐震基準を満たしているのかを知っておくことはとても重要なことです。次は、【4】家具を固定しておくこと。背の高い家具や重たい家電などは、倒れた時の二次災害を防ぐためにもしっかりと固定しておくことが、自分だけでなく家族の身の安全にもつながります。そして、【5】非常用持ち出し袋の準備や備蓄をしておくこと。外出時には持つておくものと自宅に用意しておくものを分けて準備しておくことと、避難するためのものと生きるためにない

防災と減災の違いとは?



と困るものをしっかりとと考えて備えておくことが大事なようです。また、【6】家族で防災会議を行うこと。予め避難して集まる場所や緊急時の連絡方法を決めておくことも、とても大事なことです。そして、【7】地域とのつながりを大事にすること。災害時には、近隣の人たちとの協力体制が、お互いに支援していくといった意味でも大事なことです。このような、減災の意識を高めていくことが、災害に対する備えとして、より現実的な取り組みとなっていくと言えそうです。

